

## 裏

その部屋で

白壁に囲まれたがらんだ空間で  
彼は腕をエビのように動かしていた

何もない壁がある

何も描かれていない、と言うのではなく  
色がついていない、というのでもなく  
ましてや透明でさえ、ない  
存在自体しない壁

それを彼は引っ掻いている

ひたすら引っ掻いている  
完璧なパントマイム

気が付くと彼は消えていた

僕には壁が見えていた

(2011.12.28)